

笹田トヨ子行政視察報告

「中心商店街の活性化」をテーマに久留米市を訪問

中心都市再生に関する委員会の今年の行政視察は、「中心市街地の活性化」をテーマに久留米市と下関市に行ってきました。今回は久留米市の「六角堂広場」について報告します。

久留米市の人口は23万7千人、下関市は25万2千人で、大垣市より少し大きな町ですが、中心市街地の人口の減少、住民の高齢化、空き店舗の増加、建物の老朽化、郊外型大型店の進出など共通の現状と課題がみられました。

人々が集い、憩える広場 「六角堂広場」を建設

JR久留米駅と西鉄久留米駅の丁度中心に位置するところに、あらゆるイベントに対応した「六角堂広場」ができていました。名前の由来となった「六角堂」は戦後の商店街の中心として様々なイベントで賑わったところで、久留米の元気の源であったとのことです。この賑わいを取り戻すため、市民から様々なアイデアが出され、人々が集い、憩える広場があればとの願いから「六角堂広場」出来たとのことです。直径40メートルの円形広場と回廊があり、あらゆるイベントに対応できるステージが設置されています。施設は広場のほか六角堂プラザ（コミュニティセンター）と商業棟として店舗が5戸入れるようになっている施設でした。平成15年6月オープンで、昨年は137のイベントが行われました。主催は主にTMO（タウンマネジメント機関）によるものでしたが、今年は市民からの持ち込みが増えているとのことです。ただ、これが商店街の賑わいにつながっていくかどうかは、まだいくつかの課題があると感じました。



工事費・6億2千万円

ランニングコスト・4千万円（人件費2千万円）

ご意見・ご質問等はこちらへ TEL 81-1388

<http://www.sasada-toyoko.jp/>

e-mail: sanba1@sasada-toyoko.jp

活性化の決め手は 人が集える広場・施設

大垣市の中心は、大垣駅から大垣城公園までの比較的コンパクトにまとまった地域だと思います。その中心市街地にある興文地区センターは利用サークルの登録数が48と大変多く、特に2階のフロアでは社交ダンスなどで常に満杯状態とのことです。交通の便がよく人が集まりやすいため、興文地区以外からの利用者が多いというのも特徴です。このような高齢者の方が楽しめる場所がもっとあるならば、また高齢者だけでなく茅野市のように駅の正面に見童館があり子どもや若者なども集える場所があり、更に久留米市の六角堂広場のように、誰もが気軽にイベントができる場所があれば、もっと活性化された街になるのではと思います。

「大垣まちなか再生プラン」 に市民の皆さんの声を！

最近、大垣市都市計画課からPR版「大垣まちなか再生プラン」が配布されました。まず中心市街地の居住人口を増やし、住みやすい街、魅力ある街づくりを行おうというものです。街中の居住人口を増やすことは中心商店街活性化の前提で、その上で、外からの集客するポイントを何に求めるか、そのためにはどのような施策が必要か、等等、今後も市民のみなさんの知恵が必要です。

市議員 笹田トヨ子

